

自閉症・情緒障がい（あおぞら）学級 算数科学習指導案

児童 1年男子1名 3年男子1名 3年女子1名
 4年女子1名 6年女子1名 計5名
 指導者 T1 柏葉 義信
 T2 杉本 聡美

- 1 単元名 「あわせていくつふえるといくつ」（東京書籍 1年）
 「10よりおおきいかず」（東京書籍 1年）
 「5年のふくしゅう」（文溪堂 計算ドリル5年3学期）

2 学級の児童について

本学級の児童は一斉指導の学習の場を作ることが難しい。ほぼ同内容の授業計画を立案できる3～4歳の発達段階の2名のグループと、1歳4ヶ月から2歳の発達段階の児童2名と、6年生1名の3つのグループに分けて学習する場合が多い。また、6年生児童は「耳からの情報処理」「時間的順序、因果関係の把握」が苦手で、学習を進める上で視覚情報処理能力の優位を生かすなど様々な配慮・支援が必要である。

3 単元について








本単元の学習の前半部分では、①10～20の数唱、視写、順序、大小の学習。②1～10の数唱、視写、たし算の学習。③単位量あたりの大きさの学習。の3つのグループに分けて行う。後半部分では、学習したことを生活に生かすため、5人一緒の買い物遊びの場を設定した。5名とも買い物を経験したことがほとんどなく、現金を数えたことがない。そこで、1～3年生の3名については買い物遊びを通してたし算の概念の理解・定着をめざしたい。4年生1名は買い物遊びを通して「おねがいます」「ありがとう」の気持ちを伝える体験の場としたい。6年生1名については、10円や20円の累加や複数の組み合わせで100円にする経験を通して暗算の力を養っていききたい。

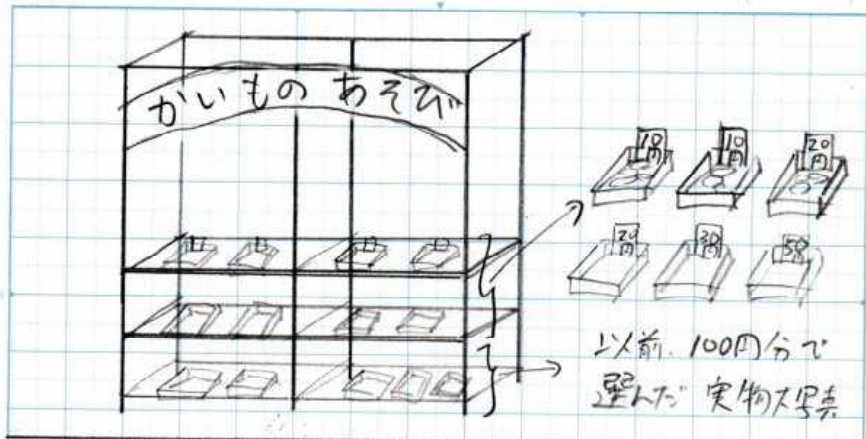
4 本時の指導

(1) 目標

児童	単元名	実態	本時の目標	視点に関わる手立て ○書く活動（視点1） ●話す・聞く活動（視点2）
A 3年男子	10よりおおきいかず	・時計、カレンダーの学習に興味を持ち始めている。 ・間違ふことに大きな不安感をもち、学習意欲の継続が難しいときがある。	・10以上の数の数唱と指さしが半分以上一致することができる。 ・合計をEさんに確かめてもらうことができる。	○0～9の数字をノートに書いておく。 ●書いた数字・文字を繰り返し唱えて理解に近づける。 ●正解した順におやつを食べ始めてよいことにする。
B 3年女子	10よりおおきいかず	・時計、カレンダーの学習に興味を持ち始めている。 ・他人の物と自分の物を区別できない。	・12や18などの数字の聴写ができる。 ・買う物を選ぶ→レジでお金を払う→自分の物（食べる）が分かる。	○手指のマッサージをしておく。 ●前時まで3回ほど実物大の写真と実物のお金で買い物の練習をする。（買い終わったら名前を書き込む）
C 1年男子	あわせていくつふえるといくつ	・15までの数字を書くことができる。 ・エリアやジャゴンが多く、会話が成り立たないときがある。	・自分が数えた数字を書くことができる。 ・依頼や感謝を表す言葉を相手を見て話すことができる。	○書き順を色で示す。 ●前時まで3回ほど実物大の写真と実物のお金で買い物の練習をする。（レジ役の先生と会話する）
D 4年女子	あわせていくつふえるといくつ	・2画の平仮名のなぞり書きができる。 ・発語はない。自分が知っていることをジェスチャーで伝えようとする。	・数字のなぞり書きができる。 ・依頼や感謝の気持ちをジェスチャーなどで伝えようとする。	○始点と終点を示す。 ●前時まで3回ほど実物大の写真と実物のお金で買い物の練習をする。（「おねがいます」「ありがとう」などをジェスチャーで示す。）
E 6年女子	5年のふくしゅう	・視覚情報処理が得意である。（暗算が苦手） ・下学年の世話が好き。	・単位量あたりの大きさの問題の立式ができる。 ・本時の学習の感想を話す（書く）ことができる。 ・同級生の計算を確かめることができる。	○問題文から大切な言葉をノートに書き出し、整理できるようにする。 ●本人、3年生、教師の分と「合計100円分」を4・5回経験することで、暗算の力を養う。

(2) 展開

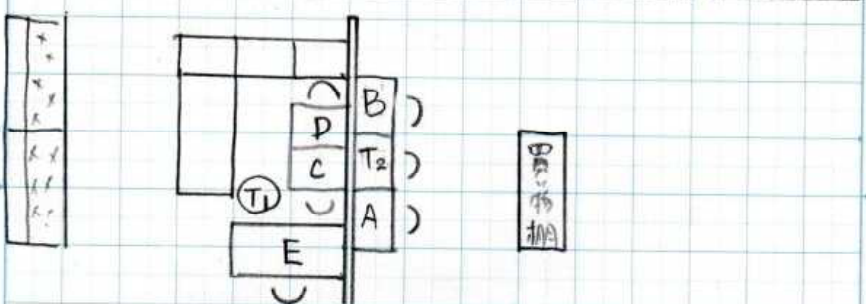
	A・Bグループ&T2 (3年生2名)	C・Dグループ&T1 (1年生1名, 4年生1名)	E & T1 (6年生1名)	
	学習活動	支援(・) 評価(◆)	学習活動	
つかむ	1 前時を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・B 児の手指のマッパージュをしておく。 ・前時に上手にかけた数字をほめる。 ・たし算とひき算を算数ブロックで操作して答えを出したことを想起する。 	1 前時を振り返る  <ul style="list-style-type: none"> ・「みんなで~」は、たし算だったことを想起する。 	1 前時を振り返る 2 文章題を読み問題場面をとらえる  <ul style="list-style-type: none"> ・文章題を読み、図(メモ書き)で表現して何算か考えたことを想起する。
5	2 1,7,12の数を言う □より○大きい数, 小さい数が分かる	<ul style="list-style-type: none"> ・A 児, B 児交代で問題に挑戦する。合っているかどうかお互いの数唱と指さしで注目していく。 ・教科書の数直線上で数唱して確かめながら行う。 ・1 ずつ「できたらほめる」ようにする。 	2 アヒルの問題を解く  3 花の問題を解く  <ul style="list-style-type: none"> ・D 児はアヒルや花の上にブロックを置くなど, 1 対 1 対応の学習をする。 ・C 児はブロックの上に数字を書き, 唱える。 ・お互いにほめ合うように促す。 ◆書き順を守って数字を書くことができる。 	3 問題を解く メモ書き $\begin{array}{r} 0.6 \text{ kg} \dots 390 \text{円} \\ \div 0.6 \\ \hline 1 \text{ kg} \dots \square \text{円} \end{array} \div 0.4$ <ul style="list-style-type: none"> ・①は $0.6 \div 0.6 = 1$ 「同じ数で割ると1になったね」とアドバイスする。 ・②は $1 \times \square = \square$ とアドバイスする。 メモ書き $\begin{array}{r} 1 \text{ kg} \dots 980 \text{円} \\ \times 0.4 \\ \hline 0.4 \text{ kg} \dots \square \text{円} \end{array} \times 0.4$ ・③はまず, ぶた肉 1 kg が何円かを求めるように促す。 メモ書き $\begin{array}{r} 0.3 \text{ kg} \dots 246 \text{円} \\ \div 0.3 \\ \hline 1 \text{ kg} \dots \square \text{円} \end{array} \div 0.3$ ◆単位量あたりの大きさの問題の立式ができる。 ・公式にも触れ, 適用できることを確かめる。 ・立式, 筆算が正しくできたか振り替えてほめる。 ◆本時の学習の感想を話す(書く)ことができる。
自分の考えを持つ	3 大きい方につける穴あき部分の数字を入れる	<ul style="list-style-type: none"> ・読むことができても, 書くことができなかった場合, 数カードを選ぶ→なぞり書きを行う。 ◆10以上の数の数唱と指さしが半分以上一致することができる。 ◆数字の視写, 聴写ができる。 ・「□より○大きい」「□より○小さい」を教科書の数直線上でたどる。 ・数直線や算数ブロックの図を見て, 数の大きさを感じる。 ・教科書の数直線上で数唱して確かめながら行う。 	4 練習問題を解く <ul style="list-style-type: none"> ・3 + 1 や 1 + 2 の問題を赤と青のミニカーやおはじきに置き換えて意欲付けを図る。 ・1 つ 1 つできたことをほめる。 	4 感想を書く話す 次時予定に進む 
25	4 2 ずつ増える数を言う 20 から逆順で唱える			
まとめ	5 振り返る 6 買い物遊びをする	<ul style="list-style-type: none"> ・机の配置を換えながら, 頑張ったところ, できたところ, 伸びたところをほめ合う。 ・T1 は C 児, D 児の支援をする。E 児は A 児, B 児の支援をする。 ・T2 はレジ役をする。(エプロン着用) ・買い物が終わった順に買ったおやつを食べてよいことにする。 ◆買う物を選ぶ→レジでお金を払う→自分の物(食べる)が分かる。 ◆依頼や感謝の気持ちを言葉やジェスチャーなどで伝えようとする。 ◆合計 100 円分を確かめることができる。 		
15				



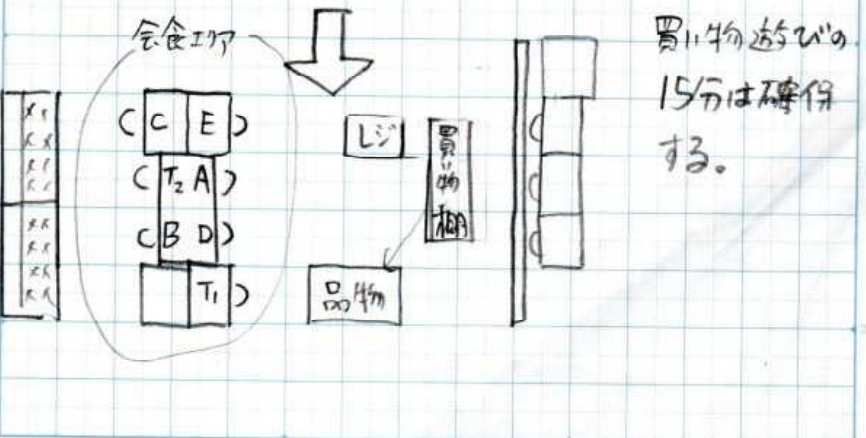
買い物かごも買っておく。

10円のお菓子を買い足しておく。

ミニカー赤・青を3台位足しておく。



授業開始後 20分でタイムアウト。3分後の机移動?!



口頭で

1. 学級の在籍，構成について
 あおぞら学級の在籍児童数は1名であるが，個人個人の発達段階や保護者の要望で，今の5人と5人になっている。
 B児は手指の巧緻性の未発達からマッサージ。
2. ノートの活用について
 - ① 学習シートとして，事前に準備している。
 - ② 担任が支援員さんにしてほしいこと，留意点も書いている。
 - ③ 児童の学習記録・形成的評価の記録となっている。
 - ④ 授業中，授業後に児童の様子を書き込み，担任・支援員間の情報交換の元となっている。
 - ⑤ 6年児童Eには，指示・発問なども書き込んでいて，視覚情報処理優位の特性を生かしている。また，教師の他の児童への指導・支援の時間確保の元となっている。

前授業研の反省より

- A・B児には，無理させない。すぐには書かない場合は，数字カードを選ばせ，なぞり書きをさせる。選べたこと，筆順があったことをほめる。
- T1はA児・B児の学習進捗状況を把握する。(時折確認する)
- T2は，意図通り学習が進められているか，児童の心身の状況等 T1に確認を求める。
- T1, T2ともに余計な指示は控え，しっとりとした授業を目指す。

3 しきにかいて ことえましよう。

①

2わ
います。



4わ
きました。



みんな
なんわに
なりましたか。



②

3ぼん
あります。



4ぼん
いれました。



ぜんぶで
なんぼんに
なりましたか。



5

くりの けえきが 3こ あります。

いちごの けえきが 4こ あります。

けえきは、ぜんぶで なんこ ありますか。



1

みんなで なんびきに なりますか。



6

こどもが 7 にん います。

3 にん きました。

こどもは、みんなで なんにんに
なりましたか。

